

地名に隠された「南海津波」●目次

序 「南海トラフ津波」の恐怖 3

第1章 浦・津・川・浜の地名が危ない

「我は海の子」 16

「津波」はどう記されてきたか 18

「浦・津・川」浜モデル地域  
地名に潜む先人のメッセージ 21 26

第2章 「浦・津・川」モデルの地名に浮かぶ名古屋

伊勢湾台風も「浦・津・川」モデル！ 30

「名古屋」のルーツは「根古屋」 35

名古屋城のルーツは「那古野城」  
名古屋の安全地帯はどこ？ 36 39

「東海道」が消えたのはなぜ？ 42

桶狭間から熱田神宮へ 45

輪中の低地地名からのメッセージ 52

第3章 海の孤島だった大阪

「水の都」大阪 58

浪速の渡し 62

古地図で見る大阪 66  
大坂を襲った安政大津波の碑 72

第4章 津々浦々にある危険な地名

「浦・津」地名の危険エリア 78

①勝浦市（千葉県） 78

②富津市（千葉県） 82

③鯛ノ浦（千葉県鴨川市） 83

④三浦半島（神奈川県） 84

⑤国府津（神奈川県小田原市） 85

⑥河津町（静岡県賀茂郡） 85

⑦沼津市（静岡県） 86

⑧田子の浦（静岡県富士市） 87

⑨焼津市（静岡県） 88

⑩ 津市 (三重県) 89

⑪ 那智勝浦町 (和歌山県東牟婁郡) 91

⑫ 和歌浦 (和歌山県和歌山市) 92

「川」地名の危険エリア 93

⑬ 鴨川市 (千葉県) 94

⑭ 広川 (和歌山県有田郡) 94

⑮ 浅川 (徳島県海部郡海陽町) 95

⑯ 高知市 (高知県) 96

⑰ 四万十市 (高知県) 96

「浜」地名の危険エリア 98

⑱ 九十九里浜 (千葉県) 98

⑲ 湘南 (神奈川県) 99

⑳ 桂浜 (高知県高知市) 100

㉑ 日向灘 (宮崎県) 102

「島」地名の危険エリア 102

㉒ 志摩半島 (三重県) 103

㉓ 徳島市 (徳島県) 103

㉔ 宇和島市 (愛媛県) 104

「崎」「戸」「門」地名の危険エリア 104

「低地」地名の危険エリア―「下田」 106

### 第5章 地名が示す「どこに逃げるか？」

「街道」に逃げる！ 110

「神社」に逃げる！ 112

「稲むらの火」で危険を知らせた 116

日本最古の高台移転 120

役立たずの避難塔 125

### 第6章 地名と地形から見える「原発の危険度」

「海辺」にある原発 130

「崎」地名に位置する敦賀・大飯・玄海 134

「浜」地名に位置する東通・福島第一他 137

「浦」「川」地名に位置する川内他 141

崖に位置する泊・女川・志賀・島根 143

「砂上の楼閣」の浜岡原発 146

### 第7章 津波碑からのメッセージ

「此処より下に 家を建てるな」 152

百人塚・千人塚の建つ九十九里浜 154

日本最古の津波碑―徳島県美波町 160

一〇〇年ごと襲った大潮―牟岐町 165

石段に残る二つの碑―海陽町 169

「鈴浪」が津波の兆候―黒潮町の碑 171

結論 「海辺」に視点を！ 174

主な参考文献 180

第1章 浦・津・川・浜の地名が危ない

寒川旭 『日本人はどんな大地震を経験してきたのか』(二〇一二年一月、平凡社新書)

北村行孝・三島勇 『日本の原子力施設全データ 完全改訂版』(二〇一二年二月、講談社)

石橋克彦 『原発震災』(二〇一二年二月、七つ森書館)

松本健一 『海岸線は語る―東日本大震災のあとで―』(二〇一二年三月、ミシマ社)

川島秀一 『津波のまちに生きて』(二〇一二年四月、富山房インターナショナル)

中沢新一 『大阪アースダイバー』(二〇一二年一月、講談社)

高世仁・吉田和史・熊谷航 『神社は警告する』(二〇一二年一月、講談社)

高山文彦 『大津波を生きる』(二〇一二年一月、新潮社)

原発ゼロの会編 『日本全国 原発危険度ランキング』(二〇一二年二月、合同出版)

谷川彰英 『地名に隠された「東京津波」』(講談社+α新書)

谷川彰英(原作) 佐野隆(作画) 『津波シミュレーションコミック もし東京湾に津波が

きたら』(講談社)

谷川彰英 『名古屋 地名の由来を歩く』(ベスト新書)

谷川彰英 『大阪「駅名」の謎』(祥伝社黄金文庫)

谷川彰英 『名古屋「駅名」の謎』(祥伝社黄金文庫)

## 谷川彰英

1945年、長野県松本市に生まれる。松本深志高校を経て東京教育大学(現筑波大学)教育学部に進学。同大学院教育学研究科博士課程修了。柳田国男研究で博士(教育学)の学位を取得。筑波大学教授、理事・副学長を歴任するも、定年退職と同時にノンフィクション作家に転身し、第二の人生を歩む。学問の壁を超えた自由な発想で地名論を展開。テレビ・ラジオなどでも活躍。筑波大学名誉教授。

著書には「地名に隠された「東京津波」(講談社+α新書)、『京都地名の由来を歩く』『名古屋 地名の由来を歩く』シリーズ(以上、ベスト新書)、『大阪「駅名」の謎』『東京「駅名」の謎』シリーズ(以上、祥伝社黄金文庫)、『地名の魅力』(白水社Uブックス)、『手塚治虫からのメッセージ「いのち」と「こころ」の教科書』(監修 イースト・プレス)など多数。

講談社+α新書

580-2 C



地名に隠された「南海津波」

谷川彰英 ©Akihide Tanikawa 2013

2013年3月19日第1刷発行

発行者——鈴木 哲

発行所——株式会社 講談社

東京都文京区音羽2-12-21 〒112-8001

電話 出版部 (03)5395-3532

販売部 (03)5395-5817

業務部 (03)5395-3615

デザイン——鈴木成一デザイン室

カバー印刷——共同印刷株式会社

印刷——慶昌堂印刷株式会社

製本——牧製本印刷株式会社

本文データ制作——朝日メディアインターナショナル株式会社

定価はカバーに表示してあります。

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部までお送りください。

送料は小社負担にてお取り替えます。

なお、この本の内容についてのお問い合わせは生活文化第三出版部までお願いいたします。本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

Printed in Japan

ISBN978-4-06-272795-2